

インターンシップ(学外実習)に関する報告書

平成 26 年度

沼津工業高等専門学校

目次

1.	インターンシップ参加者と公募数の推移	3
2.	インターンシップ事前研修	4
3.	インターンシップ受け入れ機関からのアンケート集計結果	5
4.	記述式質問 7, 8, 9 のまとめ	7
5.	インターンシップ参加学生からのアンケート集計結果	9
6.	3年生対象のインターンシップ説明会	12
7.	今年度実施した改善点	13
8.	インターンシップの総括	16
付録 1.	平成 27 年度インターンシップスケジュール (予定)	18
付録 2.	学外実習生学生心得	19

1. インターンシップ参加者と公募数の推移

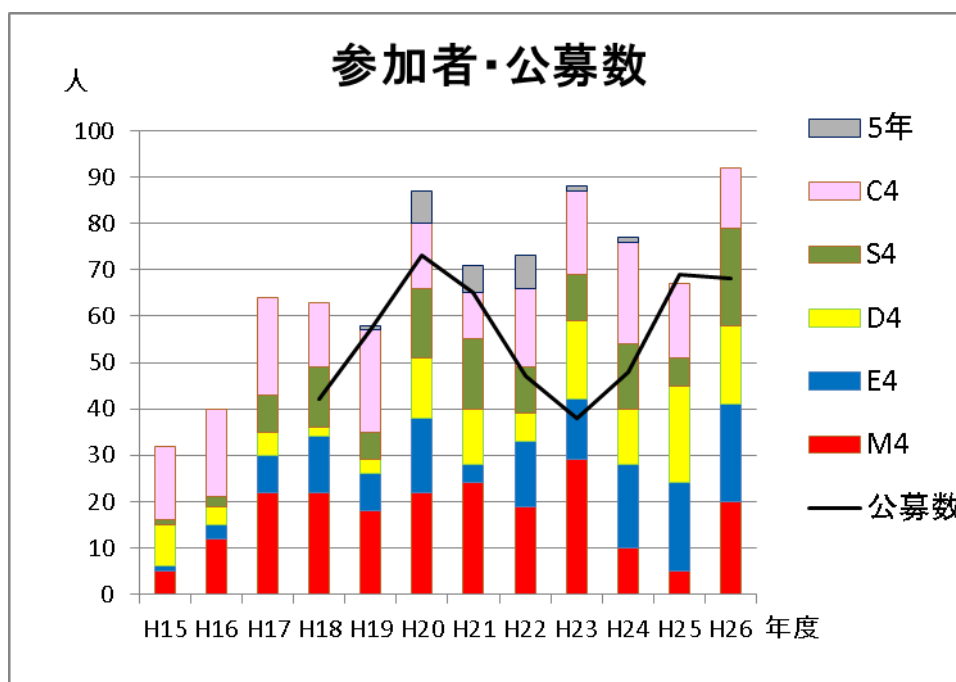


図1 インターンシップ参加者の推移

図1に、平成15年度から12年間にわたり、沼津高専からインターンシップに参加した学生数および、平成18年度以降の公募数の推移を示す。M, E, D, S, Cはそれぞれ、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、物質工学科、その後の数字は学年を意味する。5年生は参加者が少ないので、5学科をまとめた。公募数は、縦軸の人数を件数に読み換える。なお専攻科は、今年度よりインターンシップ制度の変更があり、集計より除外した。

参加学生の推移の、主な特徴を以下にまとめる。

1. 今年度、参加人数が過去最多を記録した。これは、4年生の全ての学科から多数の学生が参加したことが原因であり、その主な原動力は、インターンシップに携わる教員や職員の、学生をインターンシップに送り出そうとする意識の高さであると考えられる。また、学生課の職員の献身的な協力を得て、学生がインターンシップの情報を容易にかつ正確に入手できる環境が整ったことで、迅速に事務手続きが行えるようになったのも大きな要因である。
2. 制御情報・電子制御・電気電子の3学科は以前、参加者が10名に満たないことがあったが、ここ数年は10～20名程度の学生が参加するようになった。これは、電気や制御系の教員の努力が生んだ結果だと思われる。なお、物質工学科は統計を取り始めた頃からコンスタントに学生が参加している。学科の方針や分野の特色によるものと考えられる。

2. インターンシップ事前研修

インターンシップへ参加が決定した学生および、参加を希望する学生に対して、下記要領で夏休み前に事前研修を行った。

インターンシップ事前研修会

- 1) 日時：2014年7月16日（水） 14:50～15:30
- 2) 場所：視聴覚教室
- 3) 内容：
 - 14:50 研修会に参加するにあたって（インターンシップ担当教員）
 - 14:55 諸注意（教務主事）
 - 15:00 ガイダンス（インターンシップ担当教員）
 - 15:20 質疑・応答
 - 15:30 終了
- 4) 配布物：なし

上記3)の内容を以下にまとめる。

<研修会に参加するにあたって>

インターンシップには、学生としてではなく社会人として働くという意識で参加すること。そのために必要なことは何か、よく理解して欲しい。

<諸注意>

今日の説明は大事なことばかりなので、集中してよく聞く。働くとは何か、よく考えよ。会社の方は、どういうつもりで来ているのか、学生をよく見ている。社会人として振る舞い、有意義なインターンシップにして欲しい。

<ガイダンス>

- ① 知的財産を守る
- ② 平成25年度企業アンケートの紹介
- ③ インターンシップ実施までにやるべき事
- ④ 参加時の持ち物
- ⑤ インターンシップ参加までの受け入れ機関との連絡における注意事項
- ⑥ インターンシップ参加時の注意事項
- ⑦ ビジネスマナー
- ⑧ その他の心構え

3. インターンシップ受け入れ機関からのアンケート集計結果

平成26年10月、本校インターンシップを受け入れて下さった機関に対し、下記のアンケートをお願いした。なお、このアンケートは平成18年から9年間、同一内容で実施しており、その9年分の集計結果を図2に示す。

沼津高専のインターンシップに関するアンケート回答用紙

貴社名 _____ 所属部署名 _____

記入者名 _____ E-mail _____

質問1. 記入者の方は、インターンシップにはどのように関わりましたか？

→人事課系（主に手続きや企画を担当）、現場系（主に学生の直接指導を担当）

（5択）

質問2. 本校から参加した学生は、実習に積極的でしたか？（複数名参加の場合は平均値）

→非常に積極的、積極的、普通、消極的、非常に消極的

質問3. 本校から参加した学生の能力は、高いと感じましたか？

→非常に高い、高い、普通、低い、非常に低い

質問4. もし来年度も、本校の学生が御社を希望した場合、受け入れて頂けますか？

→是非募集したい、希望があれば、検討したい、難しい、遠慮したい

質問5. 学校側の、インターンシップに関する対応はどう感じますか？

→非常に丁寧、まあ満足、必要最小限、不十分、大いに検討改善を希望

質問6. インターンシップの企業としてのメリットは感じますか？

→大いにある、多少ある、学生による、あまりない、全くない

（以下文章形式）

質問7. 今後、インターンシップに参加する学生に伝えたい事があれば、お書き下さい。

質問8. インターンシップ実施に関して、ご要望・ご質問がございましたらお書き下さい。

質問9. その他何かございましたら、ご自由にお書き下さい。

ご協力いただきありがとうございます。

お手数ですが、E-mailまたは、FAXにてご返送いただくと幸いです。

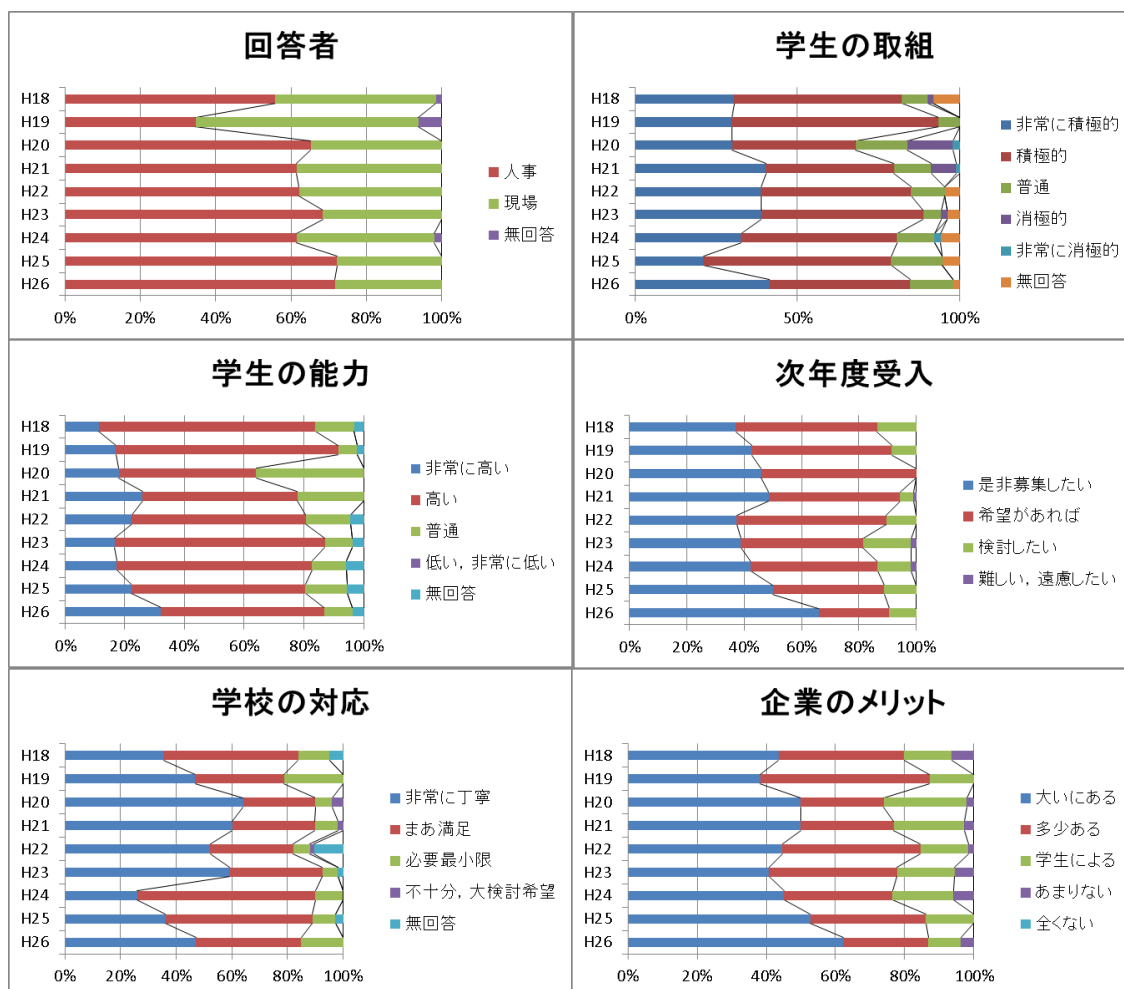


図2 受け入れ機関のアンケート集計結果

これらのデータより分ることを以下に述べる。

- (1) アンケートの回答者は、現場ではなく人事系の方が増加傾向にある。インターンシップの受付を、Web エントリーとする企業も増えてきており、事務的な処理は、近年ますますシステムティックに処理されつつあるといえる。
- (2) 今年度、学生の取組みが「非常に積極的」および、学生の能力が「非常に高い」という回答の割合が過去最高となった。世の中におけるインターンシップの認知度が高くなり、卒業後に就職する学生は、インターンシップに参加するのが当たり前のようになってきている。しかし学生には、決して受け身ではなく自ら考え、行動するよう指導した。積極性は間違いなく能力に連動している。「普通」という回答が減少し、積極的であるという評価を常にいただけるよう引き続き指導したい。
- (3) 次年度受入は、「是非募集したい」との回答が6割を超え、こちらも最高値となった。企業のメリットが「大いにある」との回答も6割を初めて超えたことから、早期に能力の高い人材を見いだしたいという企業の意図も感じられる。教育機関としては、大変ありがたいことである。今後も学生に、積極的な参加を呼びかけていきたい。

4. 記述式質問 7, 8, 9 のまとめ

記述式の質問項目には、たくさんの企業の方々からご指摘、コメント、感想などをいただいた。それらをまとめ、件数の多い順に並べたものを以下に示す。文頭カッコ内の数字は回答件数である。なお、その質問9のその他などに記載されているも、その内容に応じて、該当する質問に対する回答としてカウントした。また、アンケートの趣旨に関係のないものは割愛させていただいた。

質問7：インターンシップに参加する学生に伝えたいことは？

- (12) 企業から教えてもらうだけではなく、適正の把握など、自ら就職意識を高める行動をするとなお良いと思う。
- (10) 分からないことは遠慮せず、積極的に質問して欲しい。その方が指導する側も進めやすい。
- (9) 目的を持って参加すれば、得るものも多くなるはず。
- (4) 学校で習っていることがどう役立つのかを見て、今後の勉強につなげてほしい。
- (3) 他のインターンシップ生と協力して業務を進めるので、交流の場にもなる。
- (2) 受け入れ内容の幅が広いので、希望する内容をできるだけ詳しく説明して欲しい。
- (2) 来年以降に参加する学生は、検討時に今年参加した上級生に話を聞いてみてほしい。
- (1) 実際の仕事から、自分自身の課題を見つけることを目的として欲しい。
- (1) 将来の職場選択に際して、参考となるよう仕事の内容を肌で感じられるプログラムを組んでいるので是非積極的にご応募してほしい。
- (1) 自分自身の成長のために利用して欲しい。
- (1) 答えだけではなくその根拠についても理解するよう心がけて欲しい。この繰り返しがエンジニアを育てる。
- (1) ソフトやハード、様々なことを学んでみたい・触れてみたい、という方にはとても面白い内容となっている。
- (1) 工場でのインターンシップなので、基本は現場作業を実習していただく。
- (1) 指示が聞き取れなかったり指示が無かったりした場合は、担当者に確認する事を心がけて頂きたい。
- (1) インターンシップに参加することで、企業の印象が大きく変わることがあるはず。
- (1) 臆せずチャレンジする人を歓迎する。
- (1) 実習内容と本人のスキルが合っているか十分に検討する必要がある。
- (1) 何をしていただけるか？ではなく何をしたいかが重要であり、そのような学生を是非受け入れたい。
- (1) 元気な声で挨拶、会話ができることを望む。
- (1) 参加する企業のこと（製品など）をよく知ったうえで参加して欲しい。
- (1) 技術面だけではなく、社会人としてのマナーも学ぶ気持ちで参加して欲しい。

(1) インターンシップに参加することで、就業観だけではなく人生観も大きく変わる。

質問8：インターンシップ実施に関して、要望・質問は？

- (3) 来年度も同時期に実施で良いか（採用環境変化による影響はあるか）。
- (2) インターンシップ報告会の見学参加，または資料を拝見したい。
- (2) 先生にも，実習の見学に来ていただきたい。
- (1) 今後も積極的に受け入れていきたいので，そのための情報があればいただきたい。
- (1) 就職希望の学生に参加していただきたい。
- (1) 通常は何月頃に募集・申込みを行うのか。
- (1) 応募に合わせて，作業服のサイズを連絡いただけると助かる。
- (1) コンピュータ系の仕事を希望する方を積極的に受け入れたい。
- (1) 「生産技術」の業務は学生にとってイメージしにくいようなので，やりがい・おもしろさを伝えたい。
- (1) 弊社への入社を希望している方に参加していただきたい。
- (1) 沼津高専が新たに取り組もうとしている長期インターン制度に関して，積極的に情報共有頂ければ有難い。
- (1) 早めに参加希望を出していただきたい。
- (1) 春期インターンシップも積極的に受け入れる。
- (1) 短期間なので，テーマ設定があれば集中できると思われる。
- (1) 学生の希望をあらかじめ伝えていただきたい。
- (1) 履歴書に，今後の進路についての考えを記載してもらえると参考になる。
- (1) 同校より複数名参加いただけると，競争意識も生まれ良い経験になると思う。
- (1) 学校側から見た，学生に対する要望，本人の特徴，職場への要望などを事前に伝えて頂けると参考になる。

質問9：その他なにかありましたら。

- (1) 実習中のコミュニケーションの中で、現在の学生の様子が感じ取れて良かった。弊社社員の外界志向の向上への意識付けになった。
- (1) 今回受け入れさせていただいた学生は，非常に礼儀正しくかつ能力も高く，私も気持ちよく対応することができました。ありがとうございました。

2009年度以降，アンケートに記載いただいた内容は全て受け入れ機関ごとにまとめ，全教員が閲覧できるようにしている。次年度以降のインターンシップ実施や参加学生の指導における参考とする。

5. インターンシップ参加学生からのアンケート集計結果

平成26年10月、インターンシップに参加した本校学生に対し、下記のアンケートを実施した。参加学生に対するアンケートは、平成18年から9年間にわたり取ってきた。その目的は、学生の意識調査および参加の実体を把握し、次年度実施時の参考とするためである。

なお、以下に示すアンケート項目は、平成22年度に、それ以前のアンケートの質問項目を大幅に絞り込み、学生が答えやすく、かつ次年度参加学生に参考となる内容に見直したものである。よって図4には、ここ5年間にわたる集計結果を示す。なお、満足度のみ9年間を通して調査してきたので、あわせて示した。

平成22年度より実施したインターンシップ学生用アンケート（集計項目）

- (1) 期間中の宿泊場所
①自宅, ②下宿, ③社員寮, ④ホテル, ⑤その他
- (2) 通勤方法
①徒歩, ②自転車, ③バイク, ④電車・バス
- (3) 通勤時間
①30分以内, ②1時間以内, ③90分以内, ④それ以上
- (4) 主な実施内容
①見学, ②研修, ③実技, ④その他
- (5) 受け入れ企業でのまとめ
①プレゼン, ②報告書, ③面談, ④なし
- (6) 参加した主な目的
①単位取得, ②能力向上, ③就労体験, ④適性探索, ⑤その他
- (7) 不足していたと感じる事前準備
①安全・知的財産, ②企業研究, ③能力・姿勢, ④マナー, ⑤技能, ⑦その他, ⑧不要
- (8) 満足度
①非常に有意義, ②概ね有意義, ③あまり意義なし, ④全く意義なし
- (9) 成果
①力が向上, ②就労体験できた, ③適性が分かった, ④その他

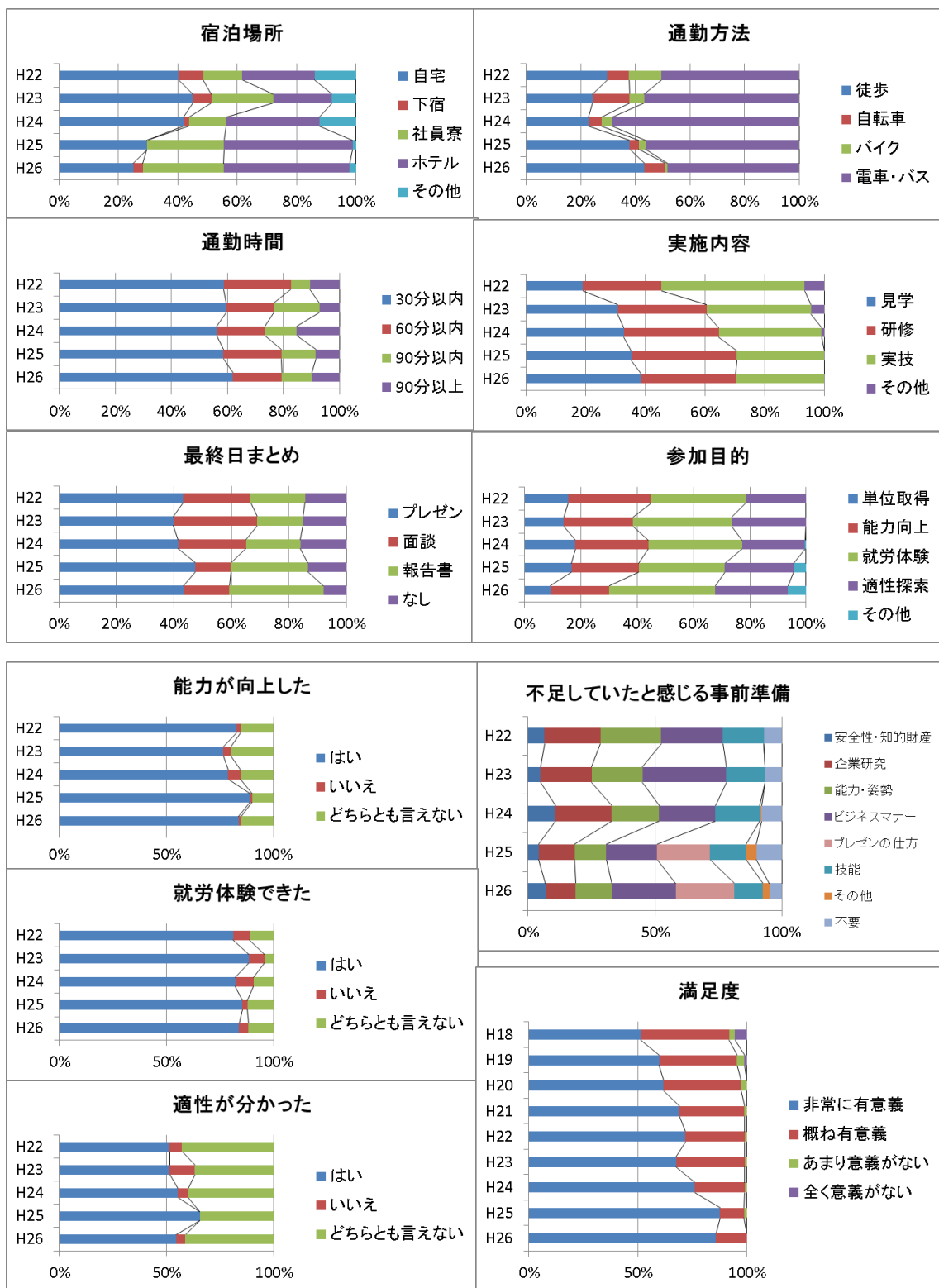


図4 参加学生のアンケート集計結果

(1) 宿泊場所・通勤方法・通勤時間

宿泊場所は、自宅の割合が減少し、社員寮やホテルが増加傾向にある。通勤時間は5年間でほぼ変化はないが、通勤方法の徒歩が増加している。すなわち、遠方の受け入れ機関への参加が増えていると考えられる。

(2) 実施内容

見学が年々増加している。インターンシップがシステムティックに処理され、より多くの学生が参加するようになった結果、実技を実施することが困難になったことの現れと取れる。インターンシップに参加して何を得ようとするのか、具体的に考えたうえで参加しなければ、参加する意義が半減する可能性がある。

(3) 最終日のまとめ

報告書の割合が増加傾向にある。受け入れ機関が、実施記録を残してその成果を評価し、実施の内容や方法を検討する資料としているか、または人材獲得の判断材料として利用していることが考えられる。事前に学生に、報告書の書き方に関する指導も必要である。

(4) 参加目的

単位取得という消極的な学生が減少し、就労体験や適正探索のためという、進路につながる目的を持って参加する学生が増加している。良い傾向である。

(5) 不足していたと感じる事前準備

平成25年度より、「プレゼンの仕方」という項目を増やした。これは、最終日のまとめで最も多いのがプレゼンであり4割以上を占めることの対策である。ビジネスマナーと共に、指導を強化していきたい。

(6) 成果

「能力が向上した」、「就労体験できた」と答えた学生の割合は、コンスタントに8割程度である。多くの学生が意識を高く持ち、何かを得ようとしたことが読み取れる。

(7) 満足度

「非常に有意義だった」と答えた学生の割合が、集計を始めた平成18年の約半数から、ほぼ上昇傾向にある。受け入れ機関のインターンシップに対するご尽力の現れであろう。このことを次年度の学生に伝え、目的意識を高く持たせるための指導を継続したい。

6. 3年生対象のインターンシップ説明会

受け入れ機関・参加学生から提出されたアンケートを集計し、次年度インターンシップに参加する現3年生を対象として、下記の要領でインターンシップ説明会を行った。インターンシップの公募は例年5月～6月に始まるので、アンケート結果等も参考に春休み中に実習先を検討するよう学生に指導した。

インターンシップ説明会

- 1) 日時：2015年1月21日（水）14：50～16：05
- 2) 場所：視聴覚教室
- 3) 内容：
 - 14：50 開会の挨拶・心構え（副校長）
 - 14：52 概要説明（インターンシップ担当教員）
 - 15：05 各学科の実施報告（各学科4年担任教員）
 - 15：55 質疑・応答
- 4) 配布物：なし

上記3)の内容を以下にまとめる。

<開会の挨拶・心構え>

自らの糧とするために、是非インターンシップに参加せよ。

<概要説明>

ある企業からの指摘、インターンシップとは何か、企業アンケート集計結果、学生アンケート集計結果、インターンシップ関連情報収集方法（Moodleの活用）、受け入れ機関より学生に伝えたいこと、今後のスケジュール

<各学科の実施報告>

機械工学科

H26実績、学生が感じたこと（報告会からの抜粋）、実習事例紹介、学生の印象、今からやっておくこと、公募における注意

電気電子工学科

H26実績、事前準備の重要性（志望動機、自己PR）、受け入れ可否の分析（受け入れ可・不可の原因等）

電子制御工学科

インターンシップの目的、過去5年間の実績、H26実績・受け入れテーマ、事例紹介、学生の声（良かったこと、困ったこと、後輩へのメッセージ）、諸注意

制御情報工学科

H26実績、事例紹介、学生からの感想、企業からの感想、アドバイス

物質工学科

学科の方針、行き先決定時の注意事項、H26実績、事例紹介

7. 今年度実施した改善点

学生や教員が、インターンシップの情報を共有するためのシステムとして、本校ではフリーソフトウェアである Moodle を利用している。Moodle とは、オープンソースの e-Learning プラットフォームであり、高専や大学などの教育機関において、教育支援システムとして導入されている。

Moodle は、平成 23 年度より本校に導入され、平成 24 年度にインターンシップの情報掲載のための活用を開始した。本年度で 3 年目となり、さらに学生の多くはスマートフォンを所有していることから、Moodle を利用したインターンシップの情報の取得が、学生の中に浸透した。そこで今年度、より学生に使いやすく、また参考になるように、以下の修正、追加を行ったので紹介する。

7-1. コンテンツの項目

まず、Moodle にあるコンテンツの項目を以下に示す。番号に○印を付けたものが、今年度新たに追加した項目であり、以下に詳細を示す。さらにコンテンツの順を、学生に重要な項目順に並べ替えた。破線より上の 12 までが、学生にアクセス権が与えられている項目である。教員専用の項目については、学生はアクセスできないが、教員間の情報交換として活用し、教員の学生指導に役立てている。

0. 更新情報
1. 学生へのメッセージ（コンテンツ作成者より）
2. 学校公募 募集企業（届いた順に掲載）
3. 過去の学校公募（H18 年度より 9 年分）
4. 実施状況（H22 年度より 5 年分）
5. 応募方法
6. 関係書類（履歴書、実習日誌等）
7. 勉強部屋（履歴書の書き方、ビジネスマナー等）
- ⑧ 【先輩の声】先輩のインターンシップを知る
- ⑨ 説明会資料（3 年生対象）
10. 保険関係
11. インターンシップ学生アンケート（事後に学生が回答）
12. 報告書（H18 年度より 8 年分）

13. 学校応募 進行状況連絡掲示板（教員専用）
14. 受入先への訪問関係（教員専用）
15. 視察の報告（教員専用）
16. 企業アンケート（教員専用）

7-2. 履歴書作成時の指導内容および報告会の資料

図5に示す【先輩の声】には、教員による履歴書作成の指導内容と、インターンシップの報告会で用いた発表資料を掲載した。まず履歴書作成においては、担当教員が指導を行っており、学生がつい書いてしまう誤りや良くない事例を紹介し、受け入れ機関が求める履歴書の内容作りの参考とする。報告会資料は、企業のホームページやインターンシップの募集要項からは知り得ない実体験の情報であり、学生がインターンシップ先を検討する際に役立てることができる。



The screenshot shows a Moodle course page with the following content:

- ◆履歴書ビフォーアフター◆**
沼津高専履歴書の志望動機欄、自己アピール欄の小ささを侮るなかれ!!!
- …志望動機編…
 - 履歴書before after NO.1
 - 履歴書before after NO.2
 - 履歴書before after NO.3
- …自己アピール編…
 - 履歴書before after NO.1
 - 履歴書before after NO.2
 - 履歴書before after NO.3
- ◆報告会資料◆**
 - アステラスファーマテック ~製薬業界への興味がより深く~
 - 富士電機 ~機械の私が電気メイン!?~
 - ヤマハモーターエンジニアリング ~思いやりの心が出来たエンジニア~
 - インフラ系 ~技術者倫理の大切さを実感~
 - 製薬・食品系 ~履歴書を書く難しさを痛感~
 - 自動車・電気製品系 ~準備すべきは自分自身を知る事~
 - 全日本空輸 ~同じ夢を持つ仲間に出会えた!~
 - ユニテックホールディングス ~もっと自分に自身を持つよう~
 - 豊橋技術科学大学 ~好きな分野が明確に!~
- ◆先輩体験談◆**
 - 今だから見えるインターンシップ1
 - 今だから見えるインターンシップ2
 - インターンシップへ行ってきました

The page includes several photographs of students holding signs and presenting at a report meeting. One prominent sign says '直感' (Intuition).

図5 【先輩の声】先輩のインターンシップを知る

7-3. 説明会資料

図6の【説明会資料】には、前章6で述べた3年生全員（約200名）を対象としたインターンシップ説明会の資料を掲載している。説明会では限られた時間でありながら、インターンシップを実施するために重要な、多くの事項を学生に伝える。したがって学生が、説明内容を十分に理解できていないことが考えられる。そこで説明会終了後に、学生が説明内容を再確認できるよう配慮した。



図6 説明会資料

7-4. 学外実習学生心得の徹底

図7の【勉強部屋】は、インターンシップに参加するうえで知っておくべき事項、主としてビジネスマナーを学生が自主学習できる問題集である。問題を受けると採点が自動で行われ、簡単なアドバイスも表示される。

その問題集に今年度新たに、「学外実習学生心得」に関する問題を追加した。これは、本校が全学生に配布する「学生便覧」に掲載されており、インターンシップ実施前に、この心得の内容を教員が指導している。しかし、実際どれほどの学生がこの心得を正確に把握しているのか、その確認作業は行っていない。そこで、この勉強部屋の問題集を必ず実施するよう学生に指導することで、心得が徹底できると考えた。なおこの問題集は、学生の実施状況を教員が把握することが可能であり、次年度より全学生の実施を目指す予定である。

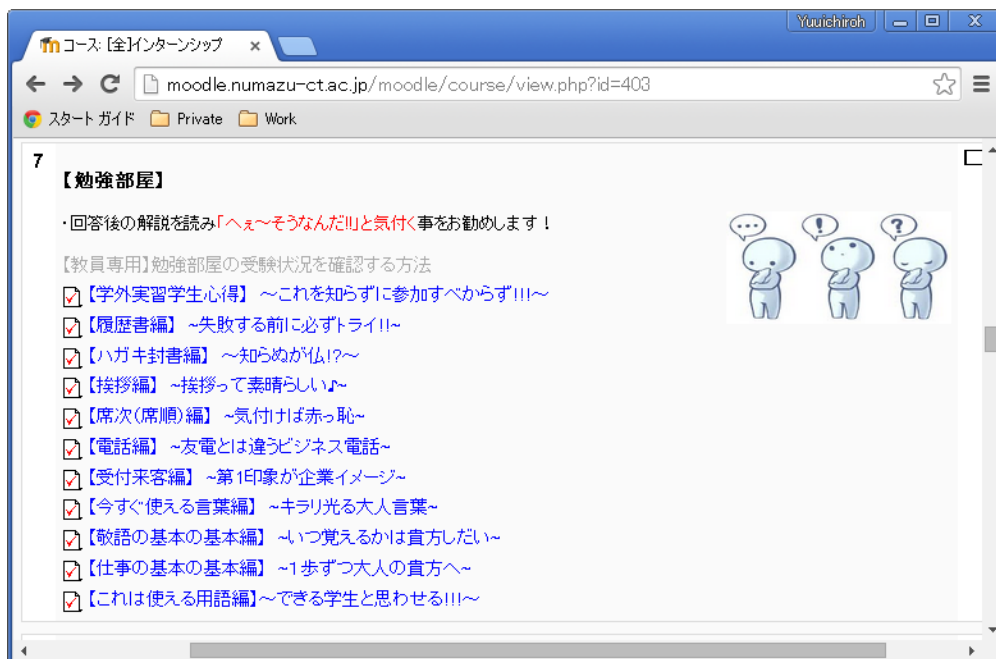


図 7 勉強部屋

8. インターンシップの総括

今年度、インターンシップの参加学生数が初めて 90 名を超え、ほぼ半数が参加した。この一番の要因は、指導教員のインターンシップに対する意識の向上であると思われる。学生がインターンシップに参加することで、プラスになることが必ずあり、それを教員が確信している。例えば以下のようなことが、報告会で挙げられた。

- (1) 高専で勉強していることが、作業や業務に多く使われており、勉強に対するやる気が出た。
- (2) 人と話ができれば、仕事にならない。コミュニケーションは大切だ。
- (3) 会社で仕事をして、自分には足りないところがまだまだたくさんあることに気づいた。
- (4) 専門以外の幅広い知識が、仕事には必要だ。
- (5) 技術者としてのやりがいや責任を感じることができた。
- (6) 高専生の強みは、実験や実習であることが再確認できた。
- (7) 体力のなさを痛感した。
- (8) 社会人としてのマナーなど、就職に対する意識が高まった。
- (9) 自分のやりたい分野について、より深く学びたいと感じ、大学編入を決めた。
- (10) 就職希望先へ行き、そこでの業務を体験して、就職したい気持ちが強くなった。
- (11) 入社してからの勉強量は、思っていたよりはるかに多い。
- (12) 専門知識を学ぶだけでなく、活かす能力が求められると分かった。

一方、図 2 の最後の図に示したように、受け入れ側のメリットが「大いにある」と答えた企業が今年度初めて 6 割を超えた。それはもちろん、上記の(10)のような効果を狙っているはずだが、それ以外に、会社の PR として実施していることも十分考えられる。すなわち、学生にとってより魅力的なインターンシップを企業は準備しているのであり、その結果が、図 4 の最後に示した、学生の満足度の向上に現れている。したがって、学生を社会に送り出す役割を担う教育機関として、インターンシップの実施において以下のことが特に重要である。

- (A) インターンシップの実施内容として、受け入れ機関が準備している内容をよく把握し、学生に正確に伝え、ミスマッチが起こらないよう注意する。
- (B) 早期に学生指導を開始し、学生が持つ企業やインターンシップに対するイメージ作りを支援することで、何となくではなく、強い意志を持って学生が参加できるよう時間をかけて指導する。
- (C) インターンシップ実施後の学生からの報告内容や感想は、担当教員や所属学科のみで保有するのではなく、7-2 で述べたような方法で、できるだけ広く、同学年や低学年、教員に伝えていくべきである。

参考までに、平成 27 年度インターンシップスケジュール案および、7-4 で述べた、学生便覧に掲載されている学外実習学生心得を以下に掲載して本報告を終わる。

沼津工業高等専門学校 機械工学科
インターンシップ代表
三谷祐一郎

付録1. 平成27年度インターンシップスケジュール（予定）

4月

- 4年新担任教員との新年度インターンシップ事前打合せ、担当引継ぎ
- インターンシップ募集案内掲載開始（学内 Web）
- 学科毎のインターンシップガイダンス
- 行き先希望調査

5～6月

- 担任教員による企業への交渉
- 公募のある企業への応募

7月

- 事前レポート・必要書類（履歴書含む）作成
- インターンシップ事前研修会（全体・クラス単位・講義など）

8～9月

- インターンシップ実施（8/7(金)～9/23(水)が夏期休業）
- 教員による視察

10月

- 受け入れ機関からの評価
- 参加学生のインターンシップ報告書提出・報告会（学科毎）
- 参加学生に対するアンケート調査
- 受け入れ機関への礼状送付・アンケート調査

1月

- 3年生対象インターンシップ説明会（概要・データ紹介・反省・注意等）

2月

- インターンシップ報告書作成
- 担当教員による評価

3月

- 単位認定

付録 2. 学外実習生学生心得

学外実習（以下「実習」という）は企業等において実際の工業技術を体得するため、専門課程の一環として履修するものであり、実習に従事する学生はこの心得を守らなければならない。

- 1) 学生は、この心得のほか必要な事項、細目について、実習開始前に学外実習指導教員の指示を受けること
- 2) 学生は、実習先の監督者の指導を受けるとともに、次に掲げる事項を守り、実習の目的を十分に達成するよう心がけること。
 - (1) 規律
 - ① 出退勤時間、休憩時間を守ること、無断で欠勤、遅刻、早退等は絶対にしないこと。
 - ② 社内規律、作業内規等の規則に従うこと。
 - ③ 学生として良識ある行動をとり、礼節を守ること。
 - ④ その他社内秩序を乱さないよう留意すること。
 - (2) 社内機密保持
 - ① 無断で設備、製品、図面等社内の写真撮影をしないこと。
 - ② 無断で指定以外の場所に立ち入らないこと。
 - ③ 許可なく、製品、研究、文献、ソフトウェア、図面、談話等を社外に漏らさないこと。
 - ④ 教員へ提出する報告には、企業秘密事項を含めないこと。
 - (3) 安全保持
 - ① 監督者の指示・説明に従い、独断で作業をしないこと。
 - ② 実習先の作業心得、安全心得をよく守り、細心の注意を払い、事故を起こさないよう心がけること。
 - ③ 万一、事故又は異常事態が生じた場合は、直ちに、監督者に報告するとともに、すみやかに指導教員に連絡すること。
 - (4) 作業態度
 - ① 監督者の指示に従い、独自の行動はとらないこと。
 - ② 実習先の社員等に対しては、努めて謙虚な態度で接すること。
 - ③ 必要以外の設備等には手を触れたりしないこと。
 - ④ 実習期間中は、毎日、作業の終了を監督者に報告すること。
 - (5) 用具の使用
 - ① 無断で社内の用具を使用しないこと。また、使用後は必ず元の場所に返しておくこと。
 - ② 許可なく物品の搬入・搬出をしないこと。
- 3) 学生は、実習期間中、常に指導教員と連絡を保つとともに、実習内容の変更があった場合は、速やかに指導教員に報告すること。
- 4) 学生は、実習終了後、実習報告書を実習先に提出するとともに、すみやかに経過を指導教員に報告すること。またその際、企業秘密事項が含まれていないかを確認すること。

学生便覧（平成 26 年度 pp.70～72）より抜粋

インターンシップ窓口
沼津工業高等専門学校 学生課 教務係
email : kyoumu@numazu-ct.ac.jp
電話 : 055-926-5733
FAX : 055-926-5882
〒410-8501 沼津市大岡 3600